

## 平成30年度 第4回 松田町総合計画審議会 議事録

日 時：平成30年11月20日(火) 午後2時から午後4時

場 所：松田町役場4階 大会議室

出席者：10名

吉田委員、辻村委員、山岸委員、吉崎委員、秋田谷委員、  
古館委員、菅谷委員、吉川委員、小池委員、足立委員（名簿順）

欠席者：3名

安藤委員、竹森委員、鍵和田委員

町 長：田代副町長、吉田教育長、渋谷議会事務局長、鈴木政策推進課長、  
小田総務課長、工藤税務課長、太田参事兼町民課長、川本子育て健康課長、  
竹内福祉課長、石井参事兼観光経済課長、依田環境上下水道課長、  
高橋まちづくり課長、椎野会計管理者兼出納室長、遠藤教育課長

事務局：政策推進課（柳澤、輿石）、ランドブレイン（石村、稲葉、中原）

傍聴者：4名

## 会次第

1. 会長あいさつ
2. 議事録署名人の選出
3. 議事1
  - (1) 第3回審議会の振り返り【資料1】
  - (2) 意見募集結果及び対応について【資料2、資料3】
  - (3) 基本構想・基本計画案について【資料4】
4. 答申（松田町第6次総合計画基本構想・基本計画案）
5. 議事2
  - (1) アクションプログラム素案について【資料5】
6. その他
7. 閉会

## 質疑記録

- 議事1（1）第2回審議会の振り返りについて  
特になし
- 議事1（2）意見募集結果及び対応について  
特になし
- 議事1（3）基本構想・基本計画案について

特になし

■議事2 (1) アクションプログラム素案について

委員：

アクションプログラムを完成させるまでのスケジュールはどのようになっているのか。

事務局：

次回2月の最終審議会で完成させる予定である。今日これからいただくご意見と、後日追加があれば「意見表」にて郵送等で意見を受け付け、それらを踏まえた修正案を委員の皆様にお送りする。そうしたやりとりを経たうえで2月の審議会に臨みたい。平行して町議会からも意見を受け付ける。次回の最終審議会で意見を受け付け、それらを踏まえて最終的な修正を加えて確認していただき、完成させたい。

会長：

6ページ「新松田駅・松田駅周辺のまちづくりプロジェクト」のイメージが5ページと比べて貧弱である。利用者の利便性を付与した斬新なランドデザインを記載してほしい。

8ページは高齢者の活躍イメージがわからない。例えば高齢者が起業する、ボランティア活動を積極的に進める、シルバー人材として技能を持つ高齢者を発掘するなど、前向きに活動するイメージを記載してほしい。

委員：

高齢者の活躍がアクションプログラムのどこを指しているのかわかりにくい。活躍の場の具体例もないし、「シルバー人材センターへの支援」にも◎が付いていない。

委員：

7ページの戦略③「地域資源のブランド化」について、成果目標に観光客数を増やすとしかないが、ブランド品を作るなど、ブランド化に関する数値を入れた方がよいのではないか。

委員：

全体について、「重点的な取組み」で優先的に取り組む事業はどのような規準で何を根拠に選択されているのか。また、成果目標についてもどのように設定しているのか。

第5次は定住化についてのプロジェクトや人口に対するものであったと思うが、今回は人口問題にどう対応していくのか。

事務局：

重点的な取組みや成果目標については事務局案として提示したものであり、ご意見をいただきながら反映していきたい。先ほどの観光客数については既存の目標値をもとに現状や推計を踏まえて一部下方修正を加えている。積算根拠として示せるものを今日是用意していない。

定住については住宅施策などで記載しているが、前回ほどの強調はしていない。ただ、優先順位を下げた訳ではない。人口については地方創生の総合戦略の方で特化させており、そちらとの棲み分けで、総合計画はより広い分野についてまとめている。

会長：

重点目標に関して追加等があれば、後日、意見表にて事務局へ提出してほしい。

続いて、第2編についてご意見をいただきたい。

12 ページ以降の矢印にメリハリがない。ルーティン的に進める施策については仕方がないが、各年度に何をやるのかをなるべく示して進捗をチェックできる記載が望ましい。

委員：

第5次は8年であったが今回は4年のため、より具体的な施策を記載すべき。各年度に何%できたかという指標を入れた方がよい。町民にわかりやすいフォーマットを考えてほしい。

事務局：

矢印についてはもう少しメリハリをつけられるか検討したい。

目標指標については、健康づくりや地域医療などにある通り、今回の計画にあたって整理したうえで可能な限り定めているということでご理解いただきたい。

委員：

30 ページの町民等の役割に「障がいのある人の社会参加への理解と支援」とあるが、家族へのフォローも含めた文言になるとよい。

22 ページ「学童保育室の推進」について、障がいのある子どもの親ほど働きたいのに、預けられる場所が少ないという現状への対応はどうなっているのか。

子育て健康課長：

現在の学童保育では「集団生活ができる子ども」とさせていただいているが、検討したい。

福祉課長：

障がい児者の家族の支援については32 ページの障害者計画等の推進にまとめているが、そこから特出しすることも含め、記載する方向で検討したい。

委員：

59 ページ上から3つ目の○にある「魅力的なお店が揃っており……」等の部分は、町民アンケートでも買い物が不便との意見が大多数であるなか、町が現状を見ていないとの誤解を招く文章になっている。63 ページの買い物弱者支援に「スーパーの誘致」がないのもおかしい。

事務局：

59 ページのご指摘部分は、現状ではなく、理想の将来像を記載している。

委員：

全体的に「実現したいまちの未来」の文章はわかりにくい。「○○を目指します」等と書いてあるならわかるが、「安心して買い物ができています」というような現在進行形の表現では、現状を言っているようにも読めてしまう。

会長：

「実現したいまちの未来」というのが何年後の未来なのか、という曖昧さも感じる。

事務局：

パブリックコメントでも同様のご意見をいただいている。前の計画を踏襲する必要もあるため大きくは変えられないが、冒頭で解説するなど、表現や記載の仕方をもっと少し工夫したい。

委員：

46 ページの現状と課題の最後にある「町無形文化財の二つの保存会」への支援のところに「祭

り囃子保存会」についても記載してほしい。後継者問題についても提起したい。

事務局：

ご指摘の通りなので、地域文化に対する理解と愛着を深めるためにということで「祭り囃子保存会」についても次回までに記載したい。

委員：

137 ページの上から 4 行目にある「どちらかと言えば住みよい」は、「どちらかと言えば住みにくい」の間違いではないか。

事務局：

その通りなので訂正したい。

委員：

36 ページの施策①「幼児・児童・生徒、教員相互間の交流事業の実施」と 37 ページの施策④「心の相談員の配置」は、2023 年以降も「交流調整」や「相談員配置」などのままで進捗が見えない。2023 年に何らかの成果が示せるような目標を掲げるべきでなはいか。

教育課長：

交流事業については幼稚園・保育園・小学校で既に実施しているものをより深めていくという意味でこのように書かせていただいている。また、心の相談員の配置についても、松田小学校にスクールカウンセラー的な相談員を配置するものであり、現在も未来も配置する予定のためこのように書いているが、いずれも 2023 年度の表記については持ち帰って検討したい。

委員：

題目は多いが施策に具体性や厚みがない。PDCA サイクルを機能させていくためにも、評価できる施策を充実させた方がよいのではないか。

事務局：

計画に取組みの詳細までを記載するのは厳しい部分もあるが、ご意見を反映し、取組みの名称や年度ごとにどういったステップを踏んでいくのかをできるだけ書き込んでいきたい。

政策推進課長：

4 年間の計画として、1 年ごとに皆様と PDCA サイクルを回していきたい。そのためにも各年度の目標を定められるものについては記載をし、先ほどの「開催する」については、開催を続ける中で何を得ていくのかが見えるものについては位置づけて、検証しやすくしていきたい。

委員：

最後の「進行管理の考え方」の記載は良いと思う。町民の関わりについてもわかりやすい。

## ■その他

〈答申の修正について〉

副会長：

人づくりの項目にある「少子高齢化」を「少子高齢社会」に訂正したい。「少子高齢化」だとこれからの話のようである。現状を言うのであれば「少子高齢社会」である。

会 長：

「シビックプライド」の部分を、わかりやすく「郷土愛や町民の誇りを醸成し」に変更したい。

委 員：

本文5行目の（以下、「実施計画」という。）にある「、」は必要ないので削除したい。

## ■答申

古舘会長より本山町長へ松田町第6次総合計画基本構想・基本計画案についての答申

本山町長あいさつ：

改めまして、みなさんこんにちは。本日は第4回の総合計画審議会を開催していただいておりますが、短い時間で、事務局の不手際等もある中で、皆様のご指導をいただき答申をまとめていただきましたことに感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

今いただいた答申の総括にあります様々な思いが詰まったキーワードとして「いのち“育み”未来へ“ツナグ”進化“つづける”故郷」という言葉の重みをしっかりと背負って、これから8年間の総合計画においてのアクションプログラムにつなげていきたいと考えています。

「持続可能」という難しい言葉も新しい言葉としてありますけれども、持続していくのはある意味当たり前だと思った時に、その当たり前を当たり前のようにできるためには、やはり人づくりが大切だと私は感じています。人がいなければ何もできませんし、人がたくさんいても想いが同じ方向でなければ、なかなか良いまちづくりはできません。「協働のまちづくり」という言葉を一人歩きさせるのではなく、みんなが他人事ではなく自分事として一致団結し、とにかく前に進むということを1つずつ手渡ししていく、そうしたまちづくりを、今後も我々行政だけではなく議会の皆様方、町民の方々とタッグを組んでやっていけるように、計画を策定していきたいと思います。今後も引き続きご支援をいただき、一緒にまちづくりをやっていけるようお願いを申し上げたいと思います。

本当に、4回に渡りありがとうございました。これからも引き続きよろしく申し上げます。